

牧師所感： いのち尽きるまで歌いたい

— マリアン・アンダーソン・ジミー・マクドナルド 師に学ぶ —

キリスト者であれば、神に対して歌うこと（讃美）は、当たり前のことだと、誰もが認識している。私はその事実を認めながら、年を取つてくると段々と力が弱くなって、歌いたくても歌えなくなってくる。

特にキリスト教徒は、日曜日毎に、神に礼拝をお捧げするのである。だが私の経験からすれば、80歳までは何とか若い人達と一緒に力強く歌うことが出来た。が、90歳になると自分も分からぬうちに力強く歌えなくなることに気付いた。体力が持たないのである。あゝ、これはおかしい！？と気が付いた。私は一般のキリスト者とは違う。少なくとも若い時 大学で歌を専攻してきた者ではないか？ 急に歌えなくなった理由が分つて來た。

それは大学で教授より、口酸っぱく言われた教訓を忘れていた。つまり声楽家は毎日発生練習をして、声を磨かなければならぬ。もし忘れるとか、何かの事情で練習（発声）を怠れば、一日で自分が気付く、二日には周囲の人が気付く、三日 ^{なま}怠ければ大衆が気付くのだ、と。私は俄に身振るいしながらその教訓を思い出した。

さて、声を取り戻さなければならぬ、と気が付いた。今までではもう90歳も過ぎたから当たり前だ。と、人々は簡単におっしゃる。私自身もその声につられて自分の怠慢を弁解する。でも自分のプライドが自分を許さない。

ところで昨年の夏、東京新宿歌舞伎町に所在の日本キリスト教団新宿西教会の深谷春男牧師から、日本キリスト伝道会“日本伝道の幻を語る会”にて二日間、独唱を依頼された。で、任は果すこととなった。

ところでそれ以来今日まで、必死になって声を戻そうとして、発声練習をしている。今は亡きアメリカのキリスト者 声楽家のマリアン・アンダーソン女史のように、又ジミー・マクドナルドのように、心を込めて讃美するつもりである。で、命尽きるまで神をたたえる為に歌うことを願つて奮闘している。読者諸賢の幸せを祈る！！